

柱立て1 大学入学共通テストについて

(1) 「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」へ切り替わる入試改革全般の改善効果について伺います。

- a 学力の3要素を多面的・総合的に評価する今回の入試改革は、各大学の個別選抜の改革も含め、改善効果が期待できる
- b 各大学の個別選抜については、多面的・総合的な評価に基づく入試を目指しながらも、時間的・人的な制約から、改革趣旨を十分に生かすことは難しいと思われるため、現状では改善効果は期待できない
- c 現時点では、どちらともいえない

(2) 「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び大学入学共通テスト問題作成方針について」が公表されました。試行調査の結果も踏まえご回答ください。

① マークシート問題では、新たな出題形式も実施されます。そのことについて伺います

- a 従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」を評価することができると思う
- b 従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」をそれほど評価できるとは思わない
- c 現時点では、どちらともいえない

② 記述式問題の導入で期待される効果について伺います。

- a 記述式問題の導入で、従来よりも受験生の「思考力・判断力・表現力」を評価することができると思う
- b 記述式問題を導入しても、従来に比べ受験生の「思考力・判断力・表現力」をそれほど評価できるとは思わない
- c 現時点では、どちらともいえない

③ 記述式問題の採点は民間事業者に委託することになりました。適切な採点が行われるために、採点に際して必要なことは何だと考えますか。(複数回答可)

- a 民間事業者の採点訓練
- b 民間事業者における機密保持
- c その他 → (具体的にご記入ください)

④ 自己採点の精度を上げるために自己採点用ワークシート等が作成されました。そのことを踏まえて、自己採点の精度について伺います。

- a 自己採点の精度が上がると思う
- b 誤字・脱字の扱いや正答例・誤答例を詳しく示すなど、自己採点の精度を高める一層の工夫をしないと自己採点の精度は上がらないと思う
- c 現時点では、どちらともいえない

⑤ 国語の記述式問題の成績は段階表示となりました。「総合評価」の段階別表示の段階ごとに加点する点数を定め、加点する最高点がマークシート式の得点と合わせた国語全体の満点に占める割合について伺います。

- a 2割程度が適切である
- b 記述式問題の割合をできるだけ小さくする方がよい
- c 記述式問題の割合をできるだけ大きくする方がよい
- d 記述式問題の利用の有無も含め、大学の判断に任せればよい
- e 現時点では、いずれともいえない

⑥ 数学の記述式問題は記述式問題が回避されないよう、マーク式問題と混在させた形で数式等を記述する小問が3問出題されます。このことについて伺います。

- a マーク式問題と混在させた形で数式等を記述する小問を3問程度出題することが適当である
- b 数式等の記述であれば、3問以上の出題でもかまわない
- c 思考力を問うためには、配点を工夫しつつ短文を書かせる問題や証明問題等を出題すべきである
- d 現時点では、いずれともいえない

⑦ その他、記述式問題について課題となっていることがあればご記入下さい。

(3) 英語においては、4技能を適切に評価できる民間の資格・検定試験を活用することで、英語の能力をバランスよく評価することを目指すこととなります。

① これまで、全高長は、大学入学共通テストの枠組みの中で実施する民間の資格・検定試験について様々な課題を指摘してきましたが、解決されたとはいえません。来年度から大学入学共通テストの枠組みの中で民間の資格・検定試験を実施することに不安はありますか。

- a 大いにある
- b 少しある
- c 不安はない

② 現在の状況で、令和3年度大学入学者選抜から民間の資格・検定試験を活用することについてどのようにお考えですか。

- a 予定どおり実施できると思う
- b 課題があっても予定どおり実施すべきである
- c 課題解決が図られるまで延期すべきである

③ 令和2年の4月から、安心して高校生が民間の資格・検定試験を受検するための環境づくりのために、解決しなければならぬ課題は何であると考えますか。(複数回答可)

- a 制度設計そのもの
- b 情報不足
- c 経済格差
- d 地域格差
- e 学習指導要領との整合性
- f CEFR 対照表の科学的な裏付け
- g 試験の公平性・公正性の確保
- h 学校における英語教育
- i 学校行事の計画
- j 文部科学省のリーダーシップ
- k 特に課題はない
- l その他 → (具体的にご記入ください)

- ④ 民間の資格・検定試験を活用する場合、英語の4技能を測る1回の受検料について伺います。
- a 5,000円から10,000円の受検料はやむを得ない
 - b 受験生の負担が5,000円以下になるようにすべき
 - c 受検料は各実施主体が自由に設定すればよい
- ⑤ 民間の資格・検定試験の受検時期について伺います。
- a 学校として生徒に適切な受検時期を指導していく
 - b 受験する大学の入試区分に応じて、生徒自身に受検時期を考えさせる
 - c 現時点では、どちらともいえない
- ⑥ 民間の資格・検定試験の受検時期を学校として指導していくとしたら3学年のいつになりますか。
(2つまで回答可)
- a 4月 b 5月 c 6月 d 7月 e 8月
 - f 9月 g 10月 h 11月 i 12月
- ⑦ 民間の資格・検定試験に向けた指導について伺います。
- a 学校としてどの資格・検定試験を受検するかを指導していく
 - b どの資格・検定試験を受検するかは生徒の判断に任せる
 - c 現時点では、どちらともいえない
- ⑧ 民間の資格・検定試験の受検に向けた英語の指導について伺います。
- a 学校として多くの生徒が受検する資格・検定試験を想定し、その資格・検定試験に合わせた指導を行っていく
 - b どの資格・検定試験を受検するかは生徒によって異なるので、学校として資格・検定試験に合わせた指導を行う予定はない
 - c 現時点では、どちらともいえない
- ⑨ 民間の資格・検定試験の受検を学校として1つ指導していくとしたらどの試験を受検させますか。
- a ケンブリッジ英語検定 b 実用英語技能検定 c GTEC d IELTS
 - e TEAP f TEAP CBT g TOEFL iBT h TOEIC L&R, S&W
- ⑩ 民間の資格・検定試験の大学側の活用方法について伺います。
- a 一定水準以上を出願資格として活用するのがよい
 - b 得点化して大学入学共通テストの英語の成績に加点するのがよい
 - c 出願資格と加点方式を併用するのがよい
 - d 各大学・学部の特徴に応じて、大学側が自由に活用すればよい
 - e 現時点では、いずれともいえない
- ⑪ 民間の資格・検定試験を加点方式で活用する場合、その最高点が共通テストの英語の成績と合わせた英語全体の満点に占める割合について伺います。
- a 2割以上が適切である
 - b 各大学が適切に定めるのがよいが、できるだけ大きい方がよい
 - c 各大学が適切に定めるのがよいが、できるだけ小さい方がよい
 - d 現時点では、いずれともいえない
- ⑫ 大学入試英語成績提供システムで使用する共通IDの発行は在学生の場合、高校経由ということ

になりました。このことについて伺います。

- a 高校在學生は学校経由の申込はやむを得ない
- b 学校経由の申込はやむを得ないが、時期（11月）を見直すべき
- c 高校の負担軽減のために、他の申込方法を検討すべき
- d 現時点では、いずれともいえない

⑬ 令和元年度の高校3年生の共通IDの発行が、今年度に限り12月に学校経由で行われる予定があります。このことについて伺います。

- a 12月に学校経由の申込でよい
- b 12月は受験直前で高校の混乱が予想されるので、年度末の申込とすべき
- c 令和元年度の高校3年生は大学入試センターへの直接申込とすべき
- d 現時点では、いずれともいえない

⑭ 民間の資格・検定試験の受験会場について伺います。

- a 大きな課題はない
- b 受験生にとって、地域格差が生じる恐れがある
- c 現時点では、どちらともいえない

⑮ 資格・検定試験の受験に際して、会場が満席となるなどの理由で、希望の回や日時に受験できない場合も予想されます。このことについて伺います。

- a 希望の回に受験できるかどうかで公平性も損なわれるので、誰もが希望する時期に受験できるようにすべきである
- b どの回を受けても条件は同じであり、受験生自身が受験可能な回から選択すればよい
- c 現時点では、どちらともいえない

⑯ 令和5年度までは、大学入学共通テストの中にセンターによる英語の共通テストを残すことになりましたが、令和6年度からはセンターによる英語の共通テストがなくなる可能性もあります。このことについて伺います。

- a 令和6年度以降も、民間の資格・検定試験だけに頼らず、大学入学共通テストの中で英語試験を継続的に実施した方がよい
- b 令和6年度以降は、大学入学共通テストの中では英語の試験を行わず、全面的に民間の資格・検定試験の利用に移行するのがよい
- c 令和6年度以降は、民間の資格・検定試験に頼らず、大学入学共通テストのみで4技能を測るのがよい
- d 現時点では、いずれともいえない

⑰ 令和3年度の大学入学共通テストの出題方法等が今年6月に示され、英語はリーディング、リスニングの満点がともに100点となりました。このことについて伺います。

- a とともに100点満点とするのが妥当である
- b リーディングの配点がリスニングの配点よりも高い方がよい
- c 内容も含めて現行のセンター試験のとおりでよい
- d 現時点では、いずれともいえない

⑱ その他、民間の資格・検定試験について、必要なこと、課題となっていることや要望・ご意見があればご記入下さい。

(4) 令和2年度の大学入学共通テスト(令和3年1月実施)への対応について伺います。

① 対応準備について

- a 新しいテストに向けて、すでに校内で委員会等を設けるなど組織的な準備・対応を始めている
- b 新しいテストに向けて、委員会等を設けるなど組織的な準備を始める予定がある
- c 新しいテストに向けた準備の必要性は感じるが、まだ予定が立っていない
- d 新しいテストに向けた準備は、現時点では特に必要としていない

② 指導方法・指導体制について

- a 校内での指導体制や指導方法を工夫することにより対応できる
- b 校内の指導体制では、新テストに対しての十分な指導は難しい
- c 現時点では、どちらともいえない

柱立て2 新しい大学入学者選抜について

(1) 総合型選抜や学校推薦型選抜において、過度な早期選考と合格発表、学力不問の傾向が続き大きな課題となったため、今回の大学入学者選抜実施要項で見直しがなされました。

① 総合型選抜、学校推薦型選抜において、各大学が実施する評価方法等(小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、各教科・科目に係るテストなど)又は「大学入学共通テスト」の少なくともいずれか1つの活用を必須化することについて伺います。

- a 何らかの形で、受験生の学力を問うことを必須とした点で、大変評価できる
- b 今までの多くの大学の入試の実施状況を見ると、きちんと履行されるか分からない
- c 実際の入試が始まってみないと、なんともいえない

② 小論文・プレゼンテーション・集団討論・面接など選抜方法の多様化に対する高校側の指導体制の整備について伺います。

- a 現行の教育課程においても、工夫することにより対応できる
- b 現行の教育課程においては、時間的な余裕や教員の指導力などの課題があり、十分な指導は校内では難しい
- c 具体的な選抜方法・内容がまだ分からないので、なんともいえない

③ 多面的・総合的な選抜として、総合型選抜や学校推薦型選抜の割合が増えることが考えられます。このことに対する対応について伺います。(複数回答可)

- a 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために、探究活動やコンクール参加などの活動を充実させ、その指導を強化している
- b 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために、「総合的な探究の時間」の内容を見直している
- c 総合型選抜や学校推薦型選抜に対応する力を育成するために主体的な活動・指導の在り方を検討している
- d これまでと変わらず、多面的・総合的な選抜に向けた特別な対応はしない
- e 現時点では、何ともいえない
- f その他 → (具体的にご記入ください)

(2) 総合型選抜や学校推薦型選抜において、学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書や提出書類等の改善が求められています。そのことについて伺います。

① 調査書の記載事項である生徒の特長や個性、多様な学習や活動を記録する環境の整備の進捗状況について伺います。

- a 昨年度入学生から記録している
- b 記録する環境の整備が整い、今年度の入学生について4月から記録している
- c 今年度の入学生が在籍している間に整える予定である
- d 実際の入試が始まってみないと、何ともいえない

② 学力の3要素を多面的・総合的に評価するための、生徒の特長や個性、多様な学習や活動を記録する環境の整備としてどのようなことを予定または行っていますか。

- a 民間の電子のポートフォリオ
- b JAPAN e-Portfolio
- c 県独自の電子のポートフォリオ
- d 紙媒体のポートフォリオ
- e その他 → (具体的にご記入ください)

③ 生徒が作成するポートフォリオに記載された実績に対して学校の証明が必要とされています。実際に生徒が記載した実績に対して、どのようなものであれば証明可能と考えるかご記入ください。

④ 推薦書や活動報告書、大学入学希望理由書、学習計画書など、必要に応じて様々な書類を作成する必要があります。これらの書類を作成する上で課題となっていることがあればご記入ください。

⑤ その他、調査書の電子化や提出書類を記録・作成するための環境整備に関して必要と思われることやご意見があればご記入ください。

(3) 大学は、一般選抜の選考においても学力の3要素を多面的・総合的に評価するため、調査書の活用が求められています。そのことについて伺います。

① 一般選抜の選考における調査書の大学側の活用について伺います。

- a 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大は選考に調査書を統一的な方法で活用してほしい
- b 大学入学者選抜の改革の趣旨を尊重し、全ての国公立大と私立大が活用するならば統一的な方法でなくてよい
- c 各大学が個別選抜の改革を行っていく上で、調査書の活用方法は各大学独自の判断でかまわない
- d その他 → (具体的にご記入ください)

② その他、一般選抜の選考における調査書の大学側の利用についてご意見があればご記入ください。

(4) 3月末に新しい指導要録が示され、これを基にして現高校2年生から導入される新しい調査書の作成について伺います。

① 新しい調査書の作成に向けた設置者の対応や準備状況について伺います。

- a すでに新しい調査書に対応できている
- b 今年度中に対応できるよう準備が進められている
- c 次年度の新しい調査書発行に間に合うよう準備が進められている
- d わからない

② 新しい調査書の作成に向けた貴校の対応や準備状況について伺います。

- a すでに新しい調査書に対応できる準備ができている
- b 今年度中に対応できるよう準備を進めている
- c 次年度の新しい調査書発行に間に合うよう準備を進めている
- d まだ何もしていない

③ 次年度の大学入試より一部の大学と高等学校で電子調査書が導入され、令和4年度の大学入試から電子調査書が全面導入されます。調査書を利用するのは大学だけではなく、短期大学、専門学校や各種学校も利用しています。調査書の原本は1つという考えに立てば、今後の電子調査書の導入においては少なからぬ課題や不安があると思います。そこで、今年度から電子調査書が一部導入されることに対し、高校側として課題や不安を解消するためのご意見をお書きください。

(5) 新しい大学入試では、新たな形式の問題の出題や、個別選抜においてエッセイ、プレゼンテーションやディベートなどの活用が考えられ、さらに民間の認定試験も活用されます。教育の機会均等や進学結果について、各家庭の経済力や地域差が影響するかどうかについて伺います。

① 各家庭の経済力の差がこれまで以上に入試の結果に影響を及ぼすと思いますか。

- a そう思う
- b ある程度そう思う
- c あまりそう思わない
- d そう思わない

② 地域差がこれまで以上に入試の結果に影響を及ぼすと思いますか。

- a そう思う
- b ある程度そう思う
- c あまりそう思わない
- d そう思わない

③ 高等教育の負担軽減の具体的方策として、住民税非課税世帯の授業料免除、給付型奨学金の大幅拡充や民間認定試験などへの具体的な配慮が示されつつあります。このことについて伺います。

- a 現在予定されているもので十分である
- b 現在予定されているものでやむを得ない
- c まだまだ不十分である

※ 不十分と思われる場合、その理由について、具体的にご記入ください

(6) 新しい大学入試の実施に伴い、生徒一人一人の多面的な評価を高校側でも記録し、大学側へ丁寧な情報提供をすることが重要となってきます。その流れの中で、高校側としてご意見等ございましたらご記入ください。

その他

今回の調査・研究と直接関係はありませんが、参考のためお答えください。

(1) 先日、教育再生実行会議の第十一次提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について」が公表されました。この第十一次提言の「新時代に対応した高等学校改革」で述べられているいくつかの項目の中で、特に「学科のあり方」と「中高・高大の接続」について伺います。

- ① 提言の中の「学科のあり方」で、普通科高校の類型化や文系・理系をバランスよく履修させることなどが述べられています。このことについて課題と思われることをご記入ください。
- ② 同じく、専門学科においては、社会や産業界の変化に応じた最新の教育を実現するための教育環境の整備、総合学科においては、普通科・専門学科の多様化が進展する中、総合学科としての特色の発揮について述べられています。このことについて課題と思われることをご記入ください。
- ③ 「中高・高大の接続」では、大学だけではなく高等学校も生徒受け入れに関する方針を明らかにする、中高・高大の接続についての改革などが述べられています。このことについて課題と思われることをご記入ください。

(2) 国際バカロレアの推進

国は、2020年度までに国際バカロレア認定校を200校以上に増加させる計画です。大学入学者選抜においては、世界各国からの優秀な人材の受入、国内でのIB教育の充実、大学の国際化等の変化が予想されます。このことについて、考えられる高等学校の準備等についてお考えをご記入ください。